天国の学者

御言葉の奉仕[1]

> また言ひ給ふ「この故に、天國のことを教へられたる凡ての學者は、新しき物と舊き物とをその倉より出す家主のごとし」
>
> マタイ伝福音書13:52（文語訳）

> 「この故に視よ、我なんぢらに預言者・智者・學者らを遣さんに、其の中の或者を殺し、十字架につけ、或者を汝らの會堂にて鞭うち、町より町に逐ひ苦しめん。……」
>
> マタイ伝福音書23:34（文語訳）

ようこそ

主教 Garland F. Byers, Jr., J.D., D.D.[‡] のウェブサイトのホームページへようこそ。あなたがカトリックであれ、正教会、ルーテル教会、メソジスト、バプテストであれ、その他の教派に属する者であれ、あるいは信仰を持たない者であれ、私たちは、あなたがここに来られたこと、そして時間を取って神の言葉を読み、これまでとは異なるかもしれない信仰の見方に心を開くこと、あるいは自らの信仰の見方を確かにすることを選ばれたことを、たいへんうれしく思う。天国の学者は42の言語で刊行されている。このウェブサイトの主たる目的は、イエス・キリストの福音をすべての国民に広めることである。[2]あなたが誰であるかを知ろうとする試みは一切なされない。このサイトが保持するのは、訪問の匿名の合計数のみである。あなたの電話やコンピューターにクッキー

が置かれることはない。何も売られず、何も求められない。唯一の意図は、父なる神とその独り子イエス・キリストに栄光を帰すことであり、[3]私たちは、あなたがここにいる間、聖霊があなたの知性を照らし、あなたの心を開いてくださるよう祈っている。[4]

このウェブサイトの名称「天国の学者」は、バイヤーズ主教が受けている召命の一つから取られている。主教には二つの召命がある。第一に、使徒継承のうちにある主教としての召命、第二に、私たちの主であり救い主であるイエス・キリストが語られた、天国の学者としての召命である。[5]

バイヤーズ主教は、使徒的委任のもとにある諸国民への主教であり、このことはこのウェブサイトでさらに説明されている。その召命は、教会を牧することでも教区を治めることでもなく、使徒的権威をもって書き、御言葉の奉仕を通して神の民のために健全な教えを示すことにある。[6]彼はいかなる教派をも代弁せず、あらゆるキリスト教の伝統の証しに自由に依拠し、キリストの教会の一致を求めている。

この点で、彼は先人たちに倣っている。祭司エズラは「モーセの律法に精しき學士」であり、「エズラは心をこめてヱホバの律法を求め之を行ひてイスラエルの中に法度と例規とを教へたりき」と記されている。[7]聖ヒエロニムスは、司祭に叙任されたとき、世を捨てて選んだ修道生活を叙任によって奪われないよう求め、[8]その生涯を聖書の翻訳と解き明かしにささげた。聖ベーダは、その全生涯をウェアマスとジャロウの修道院で過ごし、自らについてこう記している。「聖書の研究に全く身をささげた。……常に、学ぶこと、教えること、あるいは書くことを喜びとしてきた。」[9]

バイヤーズ主教は、どの教会に通うかを決めるにあたって聖霊の導きに従うこと、[10]そして真の教理を教え、あなたを霊的に養う場所を見いだすことを勧めている。[11]彼は教会を牧することを求めず、巡回伝道者になることも求めていない。バイヤーズ主教は聖霊に導かれるままに真の教理を教え、あなたがどこにいても、神の言葉を読むことによって祝福を受けるよう祈っている。[12]

案内

はじめにお読みください

主教の番号付きの教理的声明を読もうとするなら、この祈りを祈り、第二部の拘束の部分を読んでそれに同意することを強く勧める。そうすれば、妨げられることも阻まれることもなく読むことができる。

主教について

その洗礼、按手および主教聖別と、それぞれを証明する文書。

個人的委任

主教として、また天国の学者としての、その召命。十二の項目にわたって述べる。

使徒継承

主教から主教へと使徒にまでさかのぼる、その継承の系譜。

刊行物

刊行の順に番号を付し、分類を添えた、その著作。

十の国

宛てられた教会ごとに整理された、その著作。

主教の印章

印章とその標語の意味。

資料

自由に利用できる、聖書と初代教会のパブリックドメインの文書。

特別プロジェクト

アポカリプス、すなわち大覚醒は、すでに始まっている。特別プロジェクトは、ハルマゲドンにおける獣との最後の戦いを前にして、教会の働きを導く。

主教の机から

祈りの願い、お知らせ、日々の事柄。

編集凡例

このウェブサイトで守られている記述の規則。聖書、典拠、出典表示、文体。

主教への連絡

祈りの依頼やメッセージを、電子メールを使わずに、内密に主教へ送る。

最新の著作

著作は刊行され次第、ここに掲載される。



Euntes in Mundum Universum：「全世界を巡りて」（マルコ伝福音書16:15、文語訳）

通信

電子メール、または「主教への連絡」のページから。

bishop@thekingdomscribe.net

注

聖書は文語訳から引用する。キリストの言葉は、その引用符とともに赤で示す。NPNF2 = 『Nicene and Post-Nicene Fathers, Second Series』（ニカイアおよびニカイア以後の教父著作集、第二集）。

1 使徒行伝6:4（文語訳）「我らは專ら祈をなすことと、御言に事ふることとを務めん』」

2

マタイ伝福音書28:19（文語訳）「されば汝ら往きて、もろもろの國人を弟子となし、父と子と聖靈との名によりてバプテスマを施し、」

マルコ伝福音書16:15（文語訳）「かくて彼らに言ひたまふ『全世界を巡りて凡ての造られしものに福音を宣傳へよ。」

3 ヨハネ伝福音書3:16（文語訳）「それ神はその獨子を賜ふほどに世を愛し給へり、すべて彼を信ずる者の亡びずして、永遠の生命を得んためなり。」

4 エペソ人への書1:17–18（文語訳）「我らの主イエス・キリストの神、榮光の父、なんぢらに智慧と默示との靈を與へて、神を知らしめ、 汝らの心の眼を明かにし、神の召にかかはる望と、聖徒にある神の嗣業の榮光の富と、」

5 マタイ伝福音書13:52（文語訳）「また言ひ給ふ『この故に、天國のことを教へられたる凡ての學者は、新しき物と舊き物とをその倉より出す家主のごとし』」

6
使徒行伝6:4（文語訳）「我らは專ら祈をなすことと、御言に事ふることとを務めん』」

テトスへの書1:9（文語訳）「教に適ふ信ずべき言を守る者たるべし。これ健全なる教をもて人を勸め、かつ言ひ逆ふ者を言ひ伏することを得んためなり。」

バイヤーズ主教の委任は、個人的委任のページに述べられている。

7
エズラ書7:6（文語訳）「此エズラ、バビロンより上り來れり 彼はイスラエルの神ヱホバの授けたまひしモーセの律法に精しき學士なりき 其神ヱホバの手これが上にありしに因てその求むる所を王ことごとく許せり」

エズラ書7:10（文語訳）「エズラは心をこめてヱホバの律法を求め之を行ひてイスラエルの中に法度と例規とを教へたりき」

8 ヒエロニムス、『エルサレムのヨハネ駁論——パンマキウスへ』41（NPNF2 6）「彼があなたによって叙任されたと仮定してみよ。彼はただ、哀れな一人の人間である私が、祝福された記憶のパウリヌス主教に言ったのと同じことを、あなたに言うであろう。私はあなたによって叙任されることを求めたであろうか、と私は言った。もしあなたが司祭の位を授けるにあたって、私たちから修道者の身分を剥ぎ取らないのであれば、あなたは最善と思うとおりに叙任を授けることも、差し控えることもできる。しかし、もし司祭という名を与えるあなたの意図が、私が世を捨てて求めたものを私から取り去ることにあるのなら、私はなおも、常にそうであった者であると主張しなければならない。あなたは私を叙任したことによって何も失ってはいない。」（NPNF2 6の英語から翻訳）英訳はW. H. Fremantle、G. Lewis、W. G. Martleyによる（NPNF2 第6巻、Philip Schaff、Henry Wace編、1893年）。英語本文は、New Adventによる軽微な改訂を経た本文のまま、次から引用した：https://www.newadvent.org/fathers/3004.htm。

9 ベーダ、『イングランド教会史』5.24「同じ修道院の領地に生まれた私は、七歳のとき、親族の配慮によって、最も尊敬すべき院長ベネディクトゥスに、のちにはケオルフリドに教育を受けるために託された。そして生涯の残りのすべての時をその修道院の住人として過ごしつつ、聖書の研究に全く身をささげた。そして修道規則の遵守と、教会で歌う日々の務めのただ中にあって、常に、学ぶこと、教えること、あるいは書くことを喜びとしてきた。」(Sellarの英語から翻訳)『Bede's Ecclesiastical History of England』、A. M. Sellar訳、386–87（Project Gutenberg 電子書籍 #38326)。

10
ヨハネ伝福音書16:13（文語訳)「されど彼すなはち眞理の御靈きたらん時、なんぢらを導きて眞理をことごとく悟らしめん。かれ己より語るにあらず、凡そ聞くところの事を語り、かつ來らんとする事どもを汝らに示さん。」

ロマ人への書8:14（文語訳)「すべて神の御靈に導かるる者は、これ神の子なり。」

11
ヘブル人への書10:25（文語訳)「集會をやむる或人の習慣の如くせず、互に勸め合ひ、かの日のいよいよ近づくを見て、ますます斯くの如くすべし。」

エレミヤ記3:15（文語訳)「われ我心に合ふ牧者を汝等にあたへん彼等は知識と明哲をもて汝等を養ふべし」

12 ヨハネの黙示録1:3（文語訳)「此の預言の言を讀む者と之を聽きて其の中に録されたることを守る者どもとは幸福なり、時近ければなり。」

本ページの日本語の聖句は、すべて文語訳聖書（旧約：明治元訳、1887年／新約：大正改訳、1917年、日本聖書協会）から引用しています。いずれもパブリックドメインです。本文：ウィキソース。聖句は抜粋して引用しており、省略箇所は「……」で示しています。